

今週（8月28日から9月1日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、当座預金残高が360兆円台前半での推移となった。無担保コールO/N物は、地銀業態の資金調達が週を通して減少傾向となったこともあって、弱含みでの推移となり、加重平均レートは概ね▲0.05%台後半となった。月末となる31日は調達を控える先が見られたため、▲0.066%まで低下した。業態別に見ると、地銀業態で▲0.075～▲0.045%、証券業態で▲0.070～▲0.050%、都銀、信託業態で▲0.086～▲0.075%のレンジでの出会いとなった。ターム物は、1～2W物のショートタームで▲0.04%前後での出会いが中心となった。また、9月末越えに関しては証券業態のビッドが入り、小幅マイナスからプラス圏の出会いも見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは31日に2W・8,000億円でオファーされ、落札額1,360億円（期落ち額1,451億円）となった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は▲0.145～▲0.090%程度の水準で推移した。28日のS/N（8/30-8/31）は▲0.095～▲0.090%近辺での出会い。29日のS/N（8/31-9/1）は月末初にあたることからオファーが減少、▲0.145～▲0.135%での出会いとなった。30日のS/N（9/1-9/4）から9/1のS/N（9/5-9/6）は概ね▲0.100～▲0.095%近辺での出会い。

個別銘柄では5Y130～132、10Y334～347、20Y157～161などにビッドの出入りが多く見られていた。特に月末初に関しては2Y378、5Y131、10Y337,343など、オファーの入りが悪くタイト化する銘柄が散見されていた。

●短国市場

今週の短国市場は、先週に引き続き海外勢の買いが厚く、期末に向けた担保需要も相まって良好な需給環境が継続したことで、全般的に相場は強含みの展開となった。

31日に実施された3M物の入札は、WI取引で▲0.163～▲0.16%と相場が強含む中、入札結果は平均落札利回▲0.1760%・按分落札利回▲0.1683%と、予想以上に強い結果となった。その後のセカンダリー市場では、ショートカバーから一時▲0.45%の出会いも見られた。

1日には、短国の需給が逼迫していることを勘案してか、短国買入オペが1,000億円で実施された。平均落札利回り較差▲0.010%、按分落札利回り較差▲0.017%（按分比率66.8%）と、品薄感が反映された堅調な結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、週間発行・償還総額が共に1兆4,500億円程度とほぼ横ばいで推移した。月末発行の応当入札日において、幅広い業態から大型案件が見られた。タームとしては9月末を中心に、期内物が大半を占めた。発行レートについては、CP等買入オペの結果を受けて業者の買いニーズが強まり、発行量の少ない銘柄や期越え物に関しては積極的な買いが見られた。

28日にはCP等買入オペがオファー額3,000億円で実施された。前回の約3ヶ月ぶりの低水準での決着を受けて更なる低下が期待される中、入札結果は平均落札レート▲0.026%・按分レート▲0.040%と、前回（平均▲0.014%・按分▲0.035%）比で低下した。前回に引き続き在庫の入れ替えニーズが然程強くなく、応札総額が5,509億円（前回5,133億円）と大きく膨らまなかったことが主な低下要因だと考えられる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
8/28（月）	19,449.90	0.005	109.10	△ 0.056	△ 0.098	3,622,000
8/29（火）	19,362.55	0.000	108.80	△ 0.057	△ 0.096	3,629,100
8/30（水）	19,506.54	0.000	109.85	△ 0.059	△ 0.102	3,636,700
8/31（木）	19,646.24	0.000	110.50	△ 0.066	△ 0.099	3,636,100
9/1（金）	19,691.47	△ 0.005	110.10	△ 0.063	△ 0.095	3,629,800

来週（9月4日から9月8日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
9/4 (月)	8月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)			米国祝日(Labor Day)
9/5 (火)	9月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	10Y 23,000億円 9/20発行		7月の米製造業新規受注・出荷・在庫
9/6 (水)	7月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00)	TB6M 26,000億円 9/11発行		米ページブック 8月のISM 非製造業景況指数
9/7 (木)	8月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 7月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 44,000億円 9/11発行	30Y 8,000億円 9/20発行	ECB定例理事会(金融政策発表) 4-6月期のユーロ圏GDP確報値
9/8 (金)	4-6月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 7月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 8月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	エネルギー 対策借入 6,500億円 9/20借入		7月の米卸売売上高 7月の米消費者信用残高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/4 (月)	1,000	▲ 28,200	▲ 27,200	全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完	▲ 1,500 ▲ 100 ▲ 100 100	1,400 100	▲ 100	▲ 27,300	年金保険料揚げ 法人税・消費税揚げ 普通交付税 TB3M発行▲44000償還41600 交付税借入▲10500期日10500
9/5 (火)	1,000	▲ 5,000	▲ 4,000	国債買入 短国買入	 1,000	9,900 1,000	10,900	6,900	
9/6 (水)	1,000	▲ 1,000	0				0	0	
9/7 (木)	0	2,000	2,000				0	2,000	交付税借入▲10500期日10500
9/8 (金)	0	▲ 1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
週間合計	3,000	▲ 33,200	▲ 30,200	—	▲ 1,600	12,400	10,800	▲ 19,400	

9/4は日銀予想、9/5以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、4日に交付税の払いがあるものの、税・保険料揚げによる揚げが大きく、大幅な不足日となる見込み。無担保コールO/N加重平均レートは、積み期間の後半に差し掛かることで、横ばいから小幅上昇となるが見込まれる。

レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化が無ければ、引き続きレートは低位で推移すると見られる。

短国市場は、6日に6M物、7日に3M物の入札が実施される予定となっている。短国買入オペが減額傾向となっているものの、引き続き足元の需給環境は良好であり、堅調な推移が予想される。

CP市場は、7日に日銀買入オペが3,500億円程度で実施される予定となっている。発行レートが低下基調となる中、前回オファー額と比べて500億円の増額となるため、発行環境によっては一層のレート低下が期待される。

主要なイベントとしては、国内では8日の4～6月期のGDP 2次速報、海外では6日の米ページブック、7日のECB定例理事会、4～6月期のユーロ圏GDP確報値などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によりリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。